

橋渡し促進技術開発例 ～バイオマーカー～

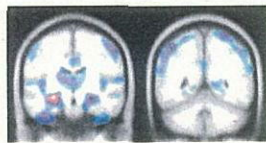
○バイオマーカーは、疾患の進行度や治療効果の指標として使用されることから、診断や新薬開発において重要性が増している。そのため、橋渡し促進技術のテーマの一つとして、社会的関心が高まりつつあるが、客観的な指標が存在せず、根本的な治療や診断が困難であるアルツハイマー病(AD)を取り上げ、支援を行っている。

アルツハイマー病総合診断体系実用化プロジェクト(平成19年～)

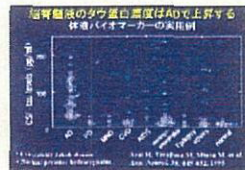
○研究開発内容

- ・MRIを用いた脳容積測定、PETによる機能画像評価などの神経イメージング
- ・血液・脳脊髄液などのバイオマーカー測定

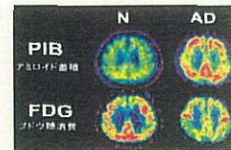
を2つの柱として、統一的な臨床評価とともに継時的に施行し、初期アルツハイマー病からADへの進行を正確かつ客観的に評価する方法を確立を目指す。



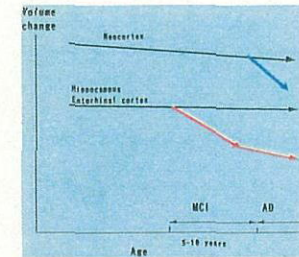
MRIによる精密な
脳容積の測定



体液生化学マーカーの測定



PETによる脳代謝・
アミロイド蓄積の評価



進行度マーカー
を指標とする薬効評価

客観的評価手法の確立

AD根本治療薬の
臨床治験が可能となる

○研究開発体制

橋渡し臨床研究拠点:(財)先端医療振興財団、東京大学等、(35臨床機関)

画像診断関連企業:日立メディコ、島津製作所、他(5社)、医薬品産業:エーザイ、アステラス製薬、他(8社)を集結